

「平和を守れ！平盛小防災レンジャー」

責任者	水口宏志（宇治市立平盛小学校 校長）
企画	糸井 登（宇治市立平盛小学校 教諭）
渉外	清水ヒトミ（宇治市立平盛小学校 教頭）
制作	紙本明子（劇団衛星） 糸井 登（宇治市立平盛小学校 教諭）

ジャパンチーム

登場人物

あすか隊員

さおり隊員

れい隊員

さとし隊員

元山坂隊員

鈴木隊員

活きの良いサバ 先生

台本

明かりがつくと

舞台の上には元山坂隊長とさとし隊員の二人が立っている。

元山坂「そうか、さとし隊員はまだちびっこレンジャーにはいったばかりだから、防災のことがあんまりわかっていないんだな」

さとし「わかりません」

元山坂「安心したまえ。何でも隊長であるこの私にきけば良いんだ」

さとし「エース！」

元山坂「よし、さとし隊員！君は防災倉庫をそうじしたいかーっ！」

さとし「エース！」

元山坂「いっしょけんめいそうじしたいかー」
さとし「エース！」
元山坂「...」
さとし「...」
元山坂「すまーん！私は防災倉庫の場所を知らんのだ」
さとし「ええ！？そんな...」
元山坂「大分まえにきいたんだけど忘れちゃったんだ」
さとし「あそこには、いざという時にやくだつ便利なものがいっぱい入ってるんですよ」
元山坂「うん、そうなんだけどね」
さとし「しょうがないな。場所ぐらいたったらぼくわかります、こっちです」
元山坂「でかしたぞ！では行くぞ」
さとし「エース！」

2人、舞台から退場。

入れ変わりに鈴木隊員、あすか隊員、さおり隊員、れい隊員、登場。

鈴木「よし、それじゃあ防災倉庫このそうじをする前に、まずは中の物をチェックしてきてちょうだい」
あすか・さおり・れい「エース！」

あすか・さおり・れい、クルリと後ろを向く。

鈴木「あすか、かいちゅう電灯は？」
あすか「オッケーです」
鈴木「さおり、ラジオは？」
さおり「オッケーです」
鈴木「れい、食べ物は？」
れい「オッケーです」
鈴木「みんな、そのほか色々ちゃんとそろってる？」
あすか・さおり・れい「せーの、オッケーです」
鈴木「よし、いじょう無し！」

あすか・さおり・れい「いじょう無し」

元山坂・さとし、舞台に登場

さとし「こっちはです」

元山坂「おお、ここが防災倉庫か。ありがとう」

鈴木「あ、二人とも。ちこくですよ今まで何してたんですか！そうじの前のかくにんはもう終わっちゃいましたよ」

元山坂「そうか、すまない。じゃあ2人でやっとくよ」

鈴木「おねがいしますね」

元山坂・さとし、後ろを向く。

《元山坂「そうじゃないぞ」さとし「エース！」》などといってる

鈴木、あすか、さおり、れい、そんな2人のことは気にせずに

「サッサッサッサッ」

と言いながらしばらくそうじ

元山坂「よし、かくにん終わり」

さとし「エース！」

元山坂「ん、...あ、地面がゆ、ゆれてるぞ。せーの」

みんなで右足の方から3歩「おととと」

続いて左足の方へ3歩「おととと」

元山坂「あーびっくりしたー、じしんやー。めっちゃゆれたなー」

あすか・さおり「あ！出口確保。ガシッ、ガラガラガラ（とびらをつかんで開ける）」

元山坂「わー、ドロボウ入ってくるやんか！何してんねん、ピシャリ（とびらをしめる）...ブルブル（体がふるえだす）」

あすか「（それを見て）あっ！」

さおり「（それを見て）じしん」

さとし「（それを見て）だー」

れい「(それを見て)あー」

鈴木「キャー」

元山坂「こんどのは大きいぞ。みんな気をつけろ。せーの」

みんなで右足の方から3歩「おととと」

続いて左足の方へ3歩「おととと」

元山坂「めっちゃこわかったわー。みんな早く広いところに逃げようぜ。あれ、あれ、あっ、出口のとびらがさっきのじしんのショックでひんまがってしもうてる」

あすか・さおり「もう、だからさっき私たちが出口確保したのに」

元山坂「で、出口かくほ？」

さおり「じしんがおきたらまず安全な場所に逃げて」

あすか「そしてその建物の出入り口がどこにあるかを」

あすか・さおり「かくにんするんです」

元山坂「そうだったのか、いや怖くなってついパニックになっちゃったよ」

鈴木「それが1番あぶないんですよ。ね、れい隊員」

れい「冷静に行動して下さい」

元山坂「そうか、すまなかった」

鈴木「どうやらここに閉じこめられてしまったようね...あ、倉庫の電気が！」

あたりがまっ暗になる

元山坂「停電か。じしんのえいきょうだろうな。こんな時にはどうすればいいんだろう」

あすか・さおり「こういう時には...」

れい「あ、そうだ。かいちゅう電灯だ。スイッチぽちっ」

元山坂「あ、明るくなったぞ、けど...あれ？」

みんな「ほわ、ほわ、ほわほわ、ほわほわほわーん(明かりがきえる)」

れい「消えちゃった」

さとし「ぼくさっきそれで遊んでて、でんちをだいが使いました」

あすか・さゆり「どうしてそんなことするの」

さとし「隊長におしえてもらったんです」

元山坂「そうそう。いやなんか、うす暗いところがかいちゅう電灯つけてたら
テンション上がってまうやん」

鈴木「だから言ったじゃないですか。あそび半分でやってるとこういう時にこ
まっちゃうんですよ」

元山坂「うん、今日はそれを身をもって知ったな。でもどうしよう」

鈴木「予備の電池がちゃんと倉庫には用意してありますから、ね、れい隊員」

れい「はい。電池をかえて、スイッチぽちっ」

みんな「ぴっかーん」

ぶたい明るくなる

元山坂「うわ、明るい。よかったー」

みんな「よかったー(など)」

元山坂「うっ！(…とたおれる)」

れい「あーあ、またたおれちゃった」

鈴木「安心してお腹がへったんでしょね」

あすか・さおり「隊長、そのパターン私たちもうあきちゃいましたよ」

さとし「隊長お腹がへったんですか？エース！（走って食べ物をとりに行く）」

鈴木「そうそうこういう時のためにここには」

あすか「クッキーとか」

さおり「サバのかんづめとか」

れい「チョコレートとか」

鈴木「非常食がいっぱい用意してあるのよ。さっき確認したぶんだと一週間は
じゅうぶんもつわね」

さとし「(もどってきて)もってきましたー、サバ(先生)です」

鈴木「ああ！」

みんな「ピチピチピチピチ...ぬるん...ぼちゃ」

鈴木「これ、さばのかんづめじゃなくて生身のサバじゃないの！」

みんな「ぬるん...ピョーン」

音楽がかかって

サバ、ひとしきり元気に泳ぎ、退場

元山坂「なんていきがいい魚なんだ！とれたてだなあれは」

あすか・さおり「なんで生身のサバなの？」

さとし「隊長に教えてもらいました」

元山坂「うん。なんかクッキーとかチョコレートとかさばのかんづめより、いや特に魚やったらしんせんの方が絶対おいしいって。あ、大丈夫大丈夫。サバはオレのおごりやから」

れい「そういうことじゃありません」

鈴木「いいですか隊長、生身のサバだと」

あすか「料理が大変だし」

さおり「かんたんに持ち運べないし」

れい「すぐくさるし」

みんな「保存ができないでしょ」

鈴木「倉庫の中にあつた食べ物は地味かもしれませんがぜんぶかんたんに食べられてしかも長い間保存ができるもばかりなんですよ」

元山坂「そうだったのか、いや知らなかったよ。ごめんぜんぶサバとこうかんしちゃったよ」

あすか・さおり「えー、ぜんぶですか？」

れい「魚なんて次の日にはくさっちゃいますよ」

元山坂「むむ、ということはこの倉庫には長くはいられないということだな」

さとし「ということは...エース！（どこかに走っていこうとするが...）」

鈴木「さとし隊長、ちょっと待って。あなた、隊長に何を教えてもらったの」

さとし「倉庫にはツルハシがあります」

鈴木「そうね」

さとし「ツルハシは危ないからぜったいにツルハシは人に向けないこと」

鈴木「...そうよ」

さとし「そのツルハシで注意しながら壁とかをやぶって、脱出したり人を助けに行くように言われました」

あすか・さおり「隊長、やっとまともなこと言ったね」

れい「やればできるじゃないですか」

元山坂「うん、ありがとう。よし、さとし隊員ここにツルハシは何本あるんだ」

さとし「6本です」

元山坂「よしいくぞみんな」

みんな横1列になって

みんな「ガシッ...よーし(ツルハシかまえる)...クイッ(右手でひじのすそを引く)」

元山坂「あ、よっこいせ」

鈴木「あ、よっこいせ」

あすか「あ、よっこいせ」

れい「あ、よっこいせ」

さおり「あ、よっこいせ」

さとし「あ、よっこいせ」

元山坂「もひとつおまけに、あ、よっこいせ」

鈴木「もひとつおまけに、あ、よっこいせ」

あすか「もひとつおまけに、あ、よっこいせ」

れい「もひとつおまけに、あ、よっこいせ」

さおり「もひとつおまけに、あ、よっこいせ」

さとし「もひとつおまけに、あ、よっこいせ」

元山坂「最後にみんなで」

みんな「よっこいせ！」

倉庫のドアが開く

みんな「やったー」

元山坂「よし、にんむ完了！」

みんな「エース！」

元山坂「それでは今から広域避難場所である平盛小学校に避難する。れい隊員、避難する時には...？」

れい「冷静に行動しましょう」
元山坂「よし、それでは行くぞ」
みんな「エース！」

みんな舞台から退場していく

～おわり～

お昼ご飯チーム

登場人物

ゆいか
ゆうと
かまぼこ
あっきー
黒森坂隊員
桂坂隊員
松ノ木坂隊員

台本

黒森坂：食材を沢山買いましたねー。

やれやれ重い、重い。(など口々に言いながらゆいか、ゆうと、かまぼこ、あっきー、黒森坂隊員登場。)

あっきー：消化器がここにあります。チェック！

全員：チェック！

黒森坂：それでは、食材を机の上に置きましょう。

ゆいか：私はからあげを作ります。

あっきー：僕はキャベツを切ります。

かまぼこ：僕は野菜炒めを作ります。

ゆうと：僕はお醤油を入れます。

黒森坂：私はごはんを炊きますね。それではお願いします。

全員：エース！

あっきー：その前に、カーテンに火が燃えうつると危ないので。

ゆいか：きっちり開けましょう。(とカーテンを開ける)

ゆうと：食器棚は開けっ放しにしないように。

かまぼこ：使った道具はきっちり直しましょう。

黒森坂：う～ん！みなさん、防災への意識が高くて、すばらしいですね！

さ～、そろそろ出来上がってきましたかね～。ルンルン～

あ、そうだ。桂坂隊員と松ノ木坂隊員が遅いですね。何やってるのかしら??

(桂坂、松ノ木坂登場)

二人：すみません～～～。

黒森坂：ちょっと、何やってたんですか？

桂坂：さっきの訓練の時に川で泳いでしまったので、シャワー浴びてました。。。

黒森坂：もー！あなたたちが当番のメインでしょ！もう出来上がってしまいませんよ。

松ノ木坂：すみません・・・。

黒森坂：それでは、まだ残っている調理と、盛り付けをお願いします。

桂坂、松ノ木坂：は～い。

黒森坂：それでは、私たちは、廊下にある消化器の場所、それから避難口の確認をしましょう。

ちびっこ隊員全員：はい！

桂坂、松ノ木坂：いってらっしゃ～い！

桂坂：それじゃー、私はからあげ作りまーす！

松ノ木坂：じゃ、僕はキャベツの千切りをさらに千切りにしまーす。

桂坂：あっ、まぶしいなー。カーテン閉めちゃおっと。(カーテンを閉める。)

松ノ木坂：よし出来た！お皿だしますねー。(食器棚を開けっ放しにする)

桂坂；私も出来た～。お皿沢山だしてください。

松ノ木坂：はい。(お皿を沢山重ねる。)

(黒森坂&ちびっこ隊員戻ってくる。)

黒森坂：御苦労様です。出来ましたか？

桂坂：バッチリです！

黒森坂：あ！食器棚の扉が開きっぱなしですよ。

松ノ木坂：食器を片付ける時に閉めたらいいじゃないですか～。

あっきー：お皿もこんなに重ねたら危ないです！

桂坂：すぐ使うでしょ～。

ゆうと：包丁も出しっ放し！

松ノ木坂：最後にまとめて片付けますー。

ゆいか：火がつきっぱなしです！

桂坂：ああ、忘れてた。

かまぼこ：カーテンが閉まってる！

桂坂：だってまぶしいんだもん。。

黒森坂：ちょっと二人とも！なんの為の防災レンジャーなの？

後で後でって、災害は突然やってくるんですよ！今ここで地震が来たらどうするんですか？って、、、

(ガタガタガタ・・・・・・・・)

全員：来た～！！(地震の動き)

黒森坂：ストップ！

(全員ストップモーション)

黒森坂：桂坂隊員、こんな時どうする？！

桂坂：こういう場合は、、火を消します！（と油に近付き、油がかかってしま
う。）あっち～～～！！！！

黒森坂：松ノ木坂隊員、こんな時どうする？

松ノ木坂：僕は、、動くとも危ないので、ぼーっとします。。

うわ～、食器が落ちてくる～ 痛て～、痛て～！

黒森坂：ちびっ子隊員、こんな時どうする？

ちびっこ隊員全員：机の下に避難します！

（机の下に隠れる）

桂坂、松ノ木坂：うわ～～～あ、、揺れが、、、止まった～。

黒森坂：二人とも大丈夫？！

桂坂：なんとか無事です～。

黒森坂：桂坂隊員、ガスは地震が来たら止まるようになってるのよ。

桂坂：そうなんですか～！

黒森坂：火の周りに燃えやすいものが置いてなければ、大丈夫なのよ。

ゆいか：あ！カーテンが！

全員：燃えてる～！（みんなうろたえる。）

黒森坂：ストップ！

（全員ストップモーション）

黒森坂：松ノ木坂隊員、こんな時どうする？！

僕は、水をかけて火を消します！（水をかけて、さらに燃えあげる）あー！！！！

黒森坂：桂坂隊員、こんな時どうする？

桂坂：勿論！消化器で火を消します！ってあれ？あれ？消化器が無いよ～！

黒森坂：ちびっこ隊員、こんな時どうする？

ちびっこ隊員：廊下の消化器を持ってきます！

（消化器をとって来る）

ゆうと：せーの！

全員：シュ～～～～！！！！

松ノ木坂：あ～、よかった～。

黒森坂：油に水なんてかけたら駄目でしょう！それから、消化器の前に荷物を置かないこと！

桂坂、松ノ木坂：す、すいません～。

かまぼこ：黒森坂隊員！天井に火が燃え移ってます！

黒森坂：わわわわわ！どうしましょう、こんな時はどうするんですたっけ？！

あっきー：落ち着いて下さい！

黒森坂：は！私としたことが！そうですね、まずは落ち着いて・・・

桂坂：おおおお、落ち着いてられませーん！逃げなきゃ～わ～！

(ぶつかりながら逃げる。)

松ノ木坂：僕はこういう時の為に、毎日訓練してるんですよ！こういう時は歩伏前進だ！！ギャー、腕に食器の破片が～！いてー！（逃げる）

黒森坂隊員：も～！よし、ここは落ち着いて。さ、行きましょう。
(全員出ていく。)

(黒森坂、ちびっ子隊員 登場)

黒森坂：さ、こっちです。あ、エレベーターと、階段がありますね。

ゆいか：まさか、エレベーターを使う人なんて、、いませんよねー。

全員：そうですねー。

黒森坂：じゃ、階段を使いましょう。(みんなで階段を降りる)

(桂坂、松ノ木坂登場)

二人：ぎゃ～～！

桂坂：あ！エレベータがある！

松ノ木坂：乗りましょ！

桂坂：助かった～。

(エレベータに乗り込む、が止まってしまう。)

二人：あれ？あれ？

松ノ木坂：エレベータが止まってしまった！

桂坂：扉が開かない～！うわ、煙が！

二人：ゴホゴホ、、助けて～～～！

(黒森坂、ちびっ子隊員登場)

黒森坂：みんな大丈夫？前の人について来て下さいね～。

あっきー：あ！何か聞こえる！

黒森坂：え？

桂坂、松ノ木坂：助けて～。

かまぼこ：エレベーターだ！

桂坂、松ノ木坂：助けて～。

黒森坂：みんなで開けましょう！

全員：せーの！（エレベータの扉を開ける）

桂坂、松ノ木坂：ゲホゲホゲホ……。助かった～。

黒森坂：二人とも！こんな時にエレベータを使う人がいますか！

桂坂、松ノ木坂：すいません～。（泣く）

黒森坂：煙が広がってきましたね。急いで逃げましょう。

桂坂：どこに逃げるんですか？？？

ちびっ子隊員全員：学校の運動場です！

松ノ木坂：運動場？

黒森坂：そうよ、学校の運動場は、広域避難場所なのよ。さ、急ぎましょ！

桂坂、松ノ木坂：急がなきゃ～～。（団子状態になって押す。）

全員：うわわわわ～。

黒森坂：落ち着いて！こういう時のエース！でしょ。

桂坂、松ノ木坂：へ？

あっきー：右手でハンカチをもって口を押さえる。

かまぼこ：煙を吸わないように！

ゆうと：左手は右ひじを押さえます。

ゆいか：前の人を押さないように！

桂坂：なるほど！

黒森坂：ハンカチは？

桂坂、松ノ木坂：忘れました……。

黒森坂：とことん駄目ですね！！じゃ、手で口を押さえてください！

桂坂、松ノ木坂：すいません。。。

黒森坂：それでは行きましょう！

全員：エース！

（全員で舞台から出ていく。）

～おわり～